藤 八峰町長 加 

# 2012年の新春を迎えて

和夫

おり影

で響も

遅

なりま れ

そうした中でも、能代商業高校や に代高校、わが町の「峰夢Run」 手ームの四百歳大会優勝等野球での 活躍が町民に希望を与えてくれたこと、二年ぶりで開催した交通安全大 会での誓いどおり、交通死亡事故ゼロが千七百日近く継続されていること等が特筆されます。 さて、厳しい日本の政治経済状況の中で、国の経済対策に呼応しながら、これまで地元の企業活動や消費ら、これまで地元の企業活動や消費がある施策を展開してきまし

消

T

第第第第 15 13 9 9 分分分分

团团团团

班班团班

長長員長

笹山亀鈴

村本田木

清美琢幸三也徹

●秋田県

年

秋田

表彰

च च च च च च च च च च च

員員員員員員員員員員

須 工 工 吉 鈴 中 武 後 米 米 田 藤 藤 藤 田 木 山 田 藤 森 森 口

正 康 哲秀雅正雄智一敬景司泰哉樹美明大明忠

新

年

を震撼

け

うござ

たが、今年も引き続き地場産業の強化と新しい産業を育成しながら、どう雇用を拡大していくかが最も大きな課題であります。 基幹産業の一つである農業は、現政権が、十分な情報開示や国民的議論もしないまま、突如、関税撤廃によって壊滅的打撃を受けるTPP(環太平洋経済連携協定)参加という方針を決める等、農業政策がブレ続けております。これを正しながら、将来に亘って持続できる農業を確立するため、農業者とともに頑張ってまいる所存であります。

の復が故

らし

れさ

た

祝況が構革の低温等

す線場心防し りに 討ミ 」。の所に災なソま防三して、 がフす。ジン シタル化第一ド的に一ド的に、地域自己 的に 化等を推 三等を推進いたした の整備や防災行政には、避難路・避難路・避難路・避難路・避難路・避難路・避難路・避難路・避難路・避難ができる。 の確立、の啓発を ま無難中 を

とい やに

等し、起業して雇用対策事業の活用を じめ、町単独で、新しい分野に挑ぶ り、起業して雇用を創出する事業を し、起業して雇用を創出する事業を ます。 ます。 ます。 また、住宅リフォー、 ミアム付商品等、 計して、 り拡者戦は

対目ま付 検レ

強化が 重の 要大 安な課題で、八震災を教 あ訓

連る四 携秋つ

- しめ、デ イ文化祭の - アルオ・ 登録二十 ス マ 町内の大 で 世別に で で で で 世間に の 大 に し に の の 大

た きるだ あ きるだ ま たを全国に

向上、 け化槽、観 のフ槽観 の 元点に

がご 健 さか勝

し田目 た県に 観光重、 資点来 源的年 特宣R 付産品の販売をおうである事 路業で

团团团团 班班分副日分 20 団 団 年 長長長崑苡 菊地 良輝 金平 正宏 金平 正宏

彰状や感謝状が贈られました。受 彰状や感謝状が贈られました。受 彰状や感謝状が贈られました。 では、加藤町長が式辞を、笠 では、加藤町長が式辞を、笠 では、加藤町長が式辞を、笠 原団長が訓辞を述べました。 でのあった方々や消防協力者に表

本 団 第1分団 火災をご 全員でご 表彰を受けられた方 で誓いました。と万歳を三唱れたが謝辞を述べ 知事表彰 副分団長(分団長) 。 し、 ・ 部分 Þ 年 鈴鈴 無最団 (敬称略) 事後の 木木 が鈴木清の鈴木清 金 清 蔵 美

## 副別 長 40 奈良 德男

第12分団 副 章 (30年以· <u>E</u> 三浦 務

【勤続章

# 【永年勤続 章

出が 席行 1 しわ月 まれ5

> 内八 16 峰 分町 団 消 の防

団員ら

が式

第 第 第 第 9 6 6 4 分 分 分 第 第 第 本 12 9 2 分 分 団 団 団 【永年勤続 班 副 分 班 分 団 佐木赤工 藤村川藤 孝啓秀兼之二美美

## 团团团团团团团团团团团团团团团 員員員員員員員員員員員員員員 川山舘三越櫻豊藤高田淺長福藤村本岡浦中田田嶋杉村野門司田

# 支部長 表彰 康 弘 敏公 康晋 一拓竜享真偉斉則男仁忠一旭真志也豊

庄工金米芦内藤平森崎 達欽康貞和也 也 弘信弘

第2分団

团团团 員員員 銭名田 谷畑村 祐有 将紀薫

員員員員員員員員員員員員員員員員 須須鈴門白伊吉須伊菊福小武鈴鈴長藤藤木脇木藤田藤藤地田林内木木門 夕光美孝幸一正 真和 慶 道達正 貴秋夫二典八樹宰怜幸優信徹也夫春

火火 火火 団 団 葉

3 広報はっぽう 2012.1月号

輪藤藤

喜

広報はっぽう 2012.1月号 2